

被災地で見た光景

7月28日に発生し、熊本県を中心に大きな被害をもたらした令和8年熊本地震。被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。被災地支援のため、当市からも職員を派遣しました。8月18日から9月8日までの間、熊本県氷川町で避難所運営の支援などに当たった職員（5人）に聞いた、被災地の現状や市民の皆さんへのメッセージをお届けします。



- ①氷川町での人家崩壊 ②避難者への連絡事項を貼り紙でお知らせ
③水を浄化して再利用する水循環型シャワー設備
④避難者の個室スペース
⑤避難所の支援物資（食料や生活用品のほか、ペット用も設置）
⑥氷川町での道路被害 ⑦避難所での炊き出し
⑧体育館に設置された居住スペース ⑨熊本城の石垣崩壊
⑩水を使わず、排泄物を密封処理できる「ラップ式簡易トイレ」

被災地を目の前にして

——被災地を見た第一印象は。
車で氷川町へ向かいましたが、熊本市内は今までどおりの生活をしているように見える一方、氷川町内は道路に亀裂が入っていたり、家屋が倒れていたりにして、その差が印象的でした。
事前に被災地の映像をニュースで見えていましたが、現実を目の当たりにして、被災者の方の心情がしのばれるとともに、改めて被害の大きさを実感しました。

——どのような支援業務を。
避難所となっていた竜北東小学校や竜北中学校で、運営の支援などを行いました。被災者の方への支援物資の配給や管理、避難所に入りする方の受付、被災者の方からの要望への対応などのほか、竜北東小学校には、使用した水を再生して循環利用するシャワーなどが設置されていて、その管理の業務にも当たりました。
氷川町の職員も避難所に来られていましたが、自宅が全壊するなど職員自身も被災した方がおられたようでした。

日頃から備え、近所付き合いが大切

——避難所の中の様子は。
竜北東小学校には約100人が避難していました。体育館が使えなかったため、被災者の方は冷房が効く教室で生活していました。
夜、寝ているときにいびきをかき方がおられたのですが、同じ部屋の方から苦情が出るようなことはありませんでした。被災者の方は、お互いにゆるせるところは我慢して、避難所運営に協力してくださっていたのだらうと思います。隣近所に頼れる親族などがない一人暮らしの高齢者の方もいて、今の超高齢社会の問題点が浮き彫りになっているように思いました。
また、断水のために水洗トイレが使えないときだったので、仮設・簡易トイレが置かれていましたが、特に仮設トイレの便器は和式であり、夏だったのでかなり匂いもしました。竜北中学校では、約90人が体育館に避難していました。冷房が効いていて、水洗トイレも使えました。居住スペースは一人当たり2畳くらいの広さで、きれいに区分けされていました。

西条市民へのメッセージを。

今回の経験を通して、避難に備えた持ち出し品を準備することが大事だと思いました。また、ある程度の食料の備蓄はもちろん、特に眼鏡やコンタクトレンズ、常用薬など日頃から自分自身が使っていて、自分の体に合うもの、合わせないといけないものを準備しておく必要もあると思います。
家具の固定も大事です。住家被害認定調査（※）の業務にも携わりましたが、家の中の倒れた物が当たって壁が崩れたり、家具が全部倒れてしまった方がいます。

※被災した住宅の被害程度を判定する調査
した。見た限りでは家具を固定している方がいなかったため、家具の固定をしていただきたいです。
ご近所とのお付き合いも、大事にするべきだと思います。避難所へ行くことがあっても、顔見知りの人、家族がいることで安心できるところもあります。
今回の災害を「自分ごと」として捉え、普段からできることを今一度考えてみてください。

今後来る地震に備えを

南海トラフ巨大地震

30年以内の発生確率 **60%～90%程度以上**

最大津波高：**3.4m**

西条市の被害想定

人 死者：**3,214人** 負傷者：4,588人

建物 **全壊：23,647棟 半壊：30,503棟**

※令和8年2月16日公表「愛媛県地震被害想定調査結果（最終報告）」より

生活に必要なものを備蓄しておこう

飲料水や食料品、生活用品など最低3日分（できれば7日分）を備蓄しておきましょう。普段から食べているものを少し多めに購入し、食べた分を買い足しながら日常的に備蓄する「ローリングストック方法」がおすすめです。

家具を固定しておこう

大切なのは、「けがをしない」ことと「自らの命を守る」こと。家具の転倒・落下でけがをしないよう、しっかりと固定しておきましょう。
市では固定器具などの購入費用の一部を補助しています。ぜひご利用ください。

▶補助対象

- ①家具等固定する器具
（L型金具、ベルト式、マット式、ポール式など）
②ガラスなどの飛散を防止するもの
（ガラス飛散防止フィルム）

▶補助金額 購入費の4分の3以内
（最大1万5,000円）

詳細は▶



在宅避難も考えよう

地震発生後に避難所で生活することだけでなく、自宅や親戚・知人宅で安全を確保する「在宅避難」も有効です。

自宅が安全であれば、在宅避難の方が普段の生活に近い環境で過ごせます。

▶問合せ

防災危機管理課 Tel0897-52-1282